

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 2科目 150分

## 解答形式

論述, 計算, 記述, 描図

## 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

分量はやや減少し, 内容把握が難しい問題も減少したため, やや易化した。

## 出題の特徴

前年よりも易化したとはいえ, 高度な思考力と計算力を必要とする難しい問題が多かった。

## その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

太陽系の惑星を扱った問題が久しぶりに出題された。

2019年度第2回東大即応オープン第1問 問1 (1) と入試問題第1問 問1 (1) がズバリの中。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	論述 計算	天文	地学基礎 地学	恒星・太陽系 複雑な計算を素早くこなすことが必要である。 問2(3)は有効数字の扱いによっては, 17年が答になることもありうる。	標準
第2問	論述 計算 記述 描図	大気・海洋	地学基礎 地学	水収支・海流 複雑な図を読み取り, 論述を簡潔に素早くまとめることが必要である。	標準
第3問	論述 計算 記述	地球	地学基礎 地学	地質・地史・固体地球 題意を的確に把握し, 単位換算に注意しながら素早く計算をする必要がある。	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

例年, 題意を的確に把握する力や高度な思考力を必要とする問題が多く出題されている。差がつく問題はこのような難易度が高めの問題であるので, 過去問などを通して十分に練習をしておこう。また, 計算や論述を正確に素早くできるようにしておきたい。

難易度は年によって異なるので, 難しい年の問題にも対処できるようにしておこう。古い過去問も可能な限り参照して, 難易度が高めの問題に慣れておこう。

分量が多く, 制限時間内にすべて終わらない場合は, 難易度の低い問題から確実に解いていくことが重要になる。時間を区切って模試や過去問を解くことで, 難易度の見極めや時間配分が適切にできるようにしておこう。